



発行人 福島県教職員組合
発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141
〔定価一部 20円〕
編集・責任者 國分俊樹
e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
http://www.f-t-u.or.jp
(この購読料は組合費に含まれています。)

教育ローンなら
ろうきんのカード型がおすすめ
必要な分だけ
引き落とし
卒業後一括返済も
できます
東北労働金庫

残業orプライベート どちらを重視しますか？

～ 県教研(11月14日)初のオンライン併用開催 ～

今年度、第70次教育研究福島県集会は、規模を大幅に縮小して11月14日(土)に県教育会館で開催しました。

午前中は、学校教育問題を「Yahoo! ニュース」等で発信している教育評論家の妹尾昌俊さんの講演でした。対面とWeb参加の併用で、多くの参加者と意見の交流ができました。ある大学で、「残業はあるが高収入の企業と、給料は安いけど残業がない企業のどちらを選択しますか?」というアンケートで、およそ8割の学生が「残業はない方がいい」と回答がありました。プライベートを大切にしたいという学生が多いことが顕著に表れています。志望者確保のためにも「働き方改革」が急務であることを改めて考えさせられました。



講師の妹尾さんと会場とのZoomによる意見交流



カリキュラムづくりと評価分科会



社会科教育、技術・職業教育分科会

午後は、対面参加者による分科会を行いました。「環境・公害」「総合的な学習」「社会」「美術」「技術」「両性の自立と平等」「カリキュラムづくりと評価」「教育条件整備」の分科会が開催されましたが、参加者からは、実践の報告やコロナ禍における悩み等活発な意見交流が行われました。今後、分科会の代表の方を中心にレポート集に集約していく予定です。

2020秋闘確定交渉結果 (賃金関係)

【給与改定】人事委員会勧告・報告通りの実施

- 給料表：改訂なし
- 期末手当：0.05月引き下げ
2020年12月：期末手当支給割合 1.225月分
0.65月分(再任用)
2021年6月12月：期末手当支給割合 1.25月分
0.675月分(再任用)
- 通勤手当：ガソリン価格下落に相当する引き下げ
交通機関利用者：全額支給限度額 57,800円(2,100円引き下げ)
※2021.4.1から
- 教員特殊業務手当の改定
部活動指導業務に係る手当
2時間以上3時間程度未満業務に従事したこと…1,800円
3時間程度業務に従事したこと…2,700円(新設)
4時間程度業務に従事したこと(大会引率等に限り)…3,600円(11/19新規提案) ※2021.4.1から



東日本大震災 10年目の今

原発災害学校現地調査報告②

教育研究所研究員 大槻 研 司

今回は、浪江町の学校の状況について、現地調査を行いましたので報告します。テレビ等のマスメディアで、あたかも「復興」がどんどん進んでいるかのように報道がなされていますが、現実の教育現場はとても困難な状況にあることを知ってほしいと思います。

■なみえ創成小・中学校

	震災前	震災後 2020年度	今後の見通し
子どもたちの実態	2010年度 児童生徒数 中学校3校 計 611人 小学校6校 計1,151人	二本松市に移転したが、2018年旧浪江東中校舎を改修し、小・中学校を集約して開校。 中学校生徒数：1年3人、2年1人、3年1人、特支1人、計6人。うち町外出身者は2人。ずっと浪江町の学校に在籍してきた生徒は1人。 職員数：7人（管理職除く）	昨年の小学6年生2人のうち1人はふたば未来中へ進学。今後もふたば未来への進学を希望する児童は出てくると考えられる。二本松で授業を継続している津島小は、現在在籍する児童1人が卒業すると同時に休校となる。
学校の様子		町当局は、なみえ創成小・中学校を設立するにあたり、子どもたちが何人であろうと、開校することを決断した。今年度2学期にそれまで在籍0人だった中学校に転入生が入り、開校3年目でようやく小・中の全学年がそろった。児童生徒数は徐々に増えているが、その多くは町外からの移住世帯である。	隣接するこども園に園児が18人いる。この子どもたちがうまく創成小に入学すればよいが…。町への帰還よりも、移住に伴う児童生徒の増加が予想される。
自治体の復興施策		1 「演劇コミュニケーション・ワークショップ」 専門家による演劇づくりで、人との対話を育てる目的で開校年度からスタート。年間数十万円の予算で実施。今年度は新型コロナウイルス感染予防のため実施を断念。 2 夏休み後半のオーストラリア旅行 19年度から実施。対象は小学3年生以上、期間は1週間、農業など様々な体験活動を行う。費用は町が負担する。今年度はコロナの影響で2泊3日、県内での多文化交流学習として実施。 3 修学旅行、学習旅行 すべて復興予算で実施。 4 制服、ジャージ等 入学時（転入時）に無料で支給（中学生は登校カバン、サブバッグも）。	
問題点		◆外部講師が多く来ること。職員の負担は少ないが、外部講師による授業が多すぎて落ち着かない感じ、中3としては入試を見通した授業が進みにくい。 ◆町教委は学校を存続するために地域やさまざまな方面との連携を図り魅力ある学校づくりに努力しているが、中3生徒にとって高校入試に向かう環境としては課題がある。 ◆小学校中心で学校運営が進められることが多い。中学生にとっては発達段階にそぐわないものもある。小・中の連携を図りながらも、それぞれの実態に応じた活動を試行錯誤しながら築いている段階である。 ◆中学校の教科指導を受け持つ教員は、国、数、理、社、技、保体が本務者で、技術は3校兼務。英、音、美、家は非常勤。生徒数は6人と少ないものの、学級数は実質4。理、社の教員は小6も受け持つ。出張や年休等への対応が困難になっている。また、生徒の希望により部活動が3つ（バド、卓球、文化）。さらに多忙化に拍車がかかっている。	



旧浪江東中学校を新築した校舎



体育館と人工芝の校庭



普通教室



やってみました!「学校あるある」② その1

県教組教育課程編成推進委員会
イメージキャラクター
「元気にカエルくん」



教文研究員 石川晃民

チャレンジ!! 働き方改革～学校を訪ねて～

福島県内で働き方改革を効果的に進めている小・中学校があります。その学校を訪ねて「どんなことをどのように行っているのか」「どう変わってきたか」を聞いてきました。これから3回連載で紹介します。今回取材して、働き方の改革を推進している学校は、小学校・中学校などの校種に関係なく共通しているところが見えてきました。連載第1回目はそれを紹介します。



働き方の改革を効果的に 推進している学校には

共通点がある!

校長の本気度・リーダーシップ

校長が本気になってリーダーシップをとり、現状を変えようとしなければ変わらない。(ある現職校長のことは)

- 校長から職員が計画年休を取得するよう働きかける。(詳細次回)



業務量を減らし 時間を確保している

業務量の削減と仕事への負担感を減らす。児童生徒の下校を早くし、在校等時間を短くする。そして放課後の時間をつくる。そのためには何が必要?

- PTA 専門委員会の廃止、学級経営誌大幅改革等々 (詳細次回)

全職員が働き方改革に 関わっている

何が課題なのか、職員一人ひとりが考える

- 意見を出せる場をつくっている。(詳細次回)



※次回は、これらの3つを基本として働き方改革を推進している中学校の具体的な取り組みを紹介します。
お楽しみに!

ほ学校で! Monster 松



知って安心 私たちの権利

～生き生きと働き続けるために～

権利は、存在してもその内容を知らなければ使えません。必要な人が必要なときに、行使しやすい環境を、みんなで協力してつくっていきましょう。先輩たちが苦勞して一つひとつ勝ち取ってきた権利です。使い続けていきましょう。

【家族のための短期介護休暇】

有給

- 日数 5日以内
(1時間単位でも取得可能、要介護者が2人以上は10日以内)
- 要介護者の範囲・内容
 - ①配偶者、父母、子、配偶者の父母
 - ②父母の配偶者、子の配偶者及び配偶者の子
 - ③三親等以内の親族、配偶者の父母の配偶者
 (2週間以上にわたって要介護状態にあるとき)
- 手続き 「休暇願」を所属長に申請。診断書や証明書は不要だが、要介護者の状態を記入した申出書の添付が必要。

みんなのひろば

「ものづくりって楽しい」

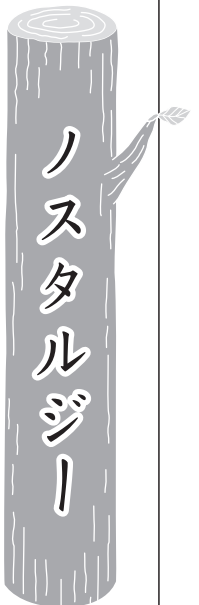
最近、わたしがつくったもの。それはガラスです。この夏、いわき市泉町に「ありんこぐらす」というガラス工房ができました。吹きガラスは、テレビで見たことがあり、体験してみたいなあと思っていました。友人と一緒に体験しました。

赤くドロドロと溶けたガラスに息をふーっと吹き込むと丸くなり、徐々に作りたい形に変化していきました。私はガラスでしたが、お皿や花瓶などを作った人もいました。それぞれが思い思いの形や色に仕上がって、日々使ったり飾ったりしています。

自分で作ったガラスで飲むビールは最高です！やさしく丁寧に教えてくださった「ありんこぐらす」のスタッフさんにも感謝です。みなさんも、手づくりしてみませんか？『ゆ・う・こ』



今回のテーマは「教師への道①」



先日副委員長が「教育実習は楽しかった」と話してくれた。ぼくも同感！教育実習がなかったら教師になっていなかったとさえ思う。大学三年六月附属小学校で三週間一回目の実習をした。その時の担当教官が語ってくれた。「授業は生きものだ。机上の計画によって進められるものではない。子どもたちとの対話によって授業はつくられ、学びが成り立つ。だから、導入・展開・終末だけが授業ではない。導入だけの授業があってもいい。子どもたちに投げかけるだけで終わってもいいのだよ。」校内研究で導入だけの授業を実際にみせてくれた。授業はひとつの形ではないのだ。授業の魅力にわくわくした。ぼくはへなちょこ授業を数回行った。その度に六年生の子どもたちはぼくを助け、授業を盛り上げてくれた。最後は国語科説明文の授業だった。今度はぼくが子どもたちを喜ばせようと思った。いつも助けてくれる子どもたちのために！その説明文に「かもがい」という貝が出てくる。その貝が近くの浅虫海岸に生息しているのが分かった。ぼくは夢中で友人と「かもがい」を探しに行った。いた！岩肌が生息している「かもがい」の様子を絵のうまい友人に手伝ってもらって描き、実際の「かもがい」の貝殻を持ち帰った。その絵と「かもがい」の貝殻を使って授業をした。相変わらずへなちょこだったけど子どもたちは驚き、とても喜んでくれた。「先生頑張ったね。うれしかったよ。」そう言ってくれた。なんだか胸の中が熱くなった。ぼくの方こそうれしかった。四十年以上経った今でも覚えていて。後に担当教官の言った子どもとの対話の意味が分かったような気がした。

今は教育実習で教師になるのをあきらめる学生が数多くいると聞く。「授業スタンダード」は教師を目指している学生の胸を熱くすることができるのだろうか…。

(K・I)